様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科研費
KAKENHI

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：８３５０３
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｋ１６７３８

研究課題名（和文）包装紙等の実用的作例における浮世絵師の画業研究

研究課題名（英文）Ukiyo-e artist's painting research on practical examples such as wrapping paper

研究代表者
松田　美沙子（Matsuda, Misako）

山梨県立博物館・山梨県立博物館・学芸員

研究者番号：６０７４６３１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究「包装紙等の実用的作例における浮世絵師の画業研究」は、今まであまり焦点が当てられてこなかった、浮世絵師による包装紙等実用的な作例を調査することにより、浮世絵師が活動していた環境や、多面的な画業を提示することが目的である。調査によって、実用的な作例の中でもとりわけ菓子袋の制作に浮世絵師が関わりを持っていたことや、既存の錦絵等が菓子袋の図柄に影響を与えていたことが判明した。また、菓子袋の制作背景としていくつかのパターンが考えられること、さらに江戸時代における錦絵制作以外の浮世絵師の活動の一端を示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究において、浮世絵師が携わった実用的な作例の中でも、とりわけ菓子袋においてその事例が数多く残されていることを改めて明示した。浮世絵師というと錦絵が主な調査・研究の対象となる中で、こうした実用的な事例にも浮世絵師が深く関わっていることが判明したことにより、浮世絵師の画業をより正確に理解するためのデータを提供することができた。また、調査の中で菓子袋制作に多様な制作背景があることが明らかとなったが、江戸時代の出版事情を論じる上で、新たな事例を提示することができた。

研究成果の概要（英文）：In this research, "Ukiyo-e artist's painting research on practical examples of wrapping paper", ukiyo-e artists are active by investigating practical examples of wrapping paper by ukiyo-e artists, which have not been focused so far. The purpose is to present the environment in which They were working and the multifaceted painting industry. The survey revealed that ukiyo-e artists were particularly involved in the production of confectionery bags, and that existing nishiki-e (colored woodblock print) had an influence on the design of confectionery bags. Furthermore, it was possible to show some patterns as the background of the production of confectionery bags, and to show a part of the activities of ukiyo-e artists other than nishiki-e production in the Edo period.

研究分野：日本美術史

キーワード：浮世絵　包装紙　実用的　菓子袋　白粉袋　江戸時代　錦絵

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　C－１９、F－１９－１、Z－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年の浮世絵研究は、浮世絵師の作家論、及び作品論に重点が置かれる傾向にあり、また作品の中でも、主に錦絵作品における美人画や役者絵が研究対象として取り上げられることが多い。浮世絵師が手がけた版本中の挿絵や、私的な出版物である摺物など、錦絵以外の版画作品も研究の対象とはなっているものの、より実用的な浮世絵師の作品研究は不十分な現状である。

もちろん団扇絵やおもちゃ絵、引札等、一部の実用的な作例は研究が行われているが（『浮世絵芸術　特集団扇絵』第 148 号、国際浮世絵学会編集委員会、2004 年。増田太次郎『引札　繪びら　錦繪廣告』新光社、1977 年など）、さらに実用的な菓子袋や商標に描かれた浮世絵師の作例研究は、ほとんど研究がなされていない。現存作例が少ないことはさることながら、消耗品である袋などの形態に描かれた絵画作品は、“物”として認識され、研究対象となり難い現状があるからである。

そうした中で、浅野秀剛氏により菓子袋に関する画期的な研究報告がなされた（浅野秀剛「菓子袋・菓子箱と商標」『和菓子』第 19 号、虎屋文庫、2012 年）。しかしながら、江戸期の菓子袋が相当数残されていることが判明したものの、論考の中ですべての作例が追いきれているわけではない。もちろん、狩野派等、浮世絵師以外の絵師が手がけた菓子袋もあるが、葛飾北斎が菓子袋用の下絵を残している点も示されており、より一層の研究の余地がある。

また、浮世絵師が手掛けた作例の中に、白粉袋や双六の袋があることがわかっている（拙稿「幕末美人画の立役者　浮世絵渓斎英泉の濃艶美人―錦絵作品を中心に―」修士論文、2013 年）。化粧品の袋など、日常の消耗品にも浮世絵師が腕をふるっていた点は従来あまり研究されていないが、浮世絵師の画業を正確に理解する上で無視できないものであり、十分な検証が必要である。

２．研究の目的

消耗品であることから現存品は少ないが、とりわけ幕末から明治期にかけて、浮世絵師が携わった実用的作例に関しては現存作品が確認できることから、こうした分野において研究の余地は十分にあるといえる。浮世絵師の画業に関して、錦絵のみで考えるのではなく、商品と絵師との関わりなど、幅広い範囲で考察を加えていかなければ、真の浮世絵師の画業を示すことはできない。よって本研究では、既に収集している商業作品としての浮世絵作例のデータを活かした上で、浅野氏により新機軸が打ち出された実用的作例研究をさらに進めることを目的とする。

３．研究の方法

本研究では、主に江戸時代から明治時代にかけて、現存が確認されている実用的作例のデータ収集をまず行い、集められた資料をもとに、以下の 3 点に焦点を当て、具体的に考察を行った。なお、データの収集は実際に資料を実見・調査した他、インターネット上のデータベースで公開されているデータの収集も行った。

(1) 描かれた対象

作例に描かれている図柄にどのような傾向があるのか検証した。資料の法量、商品名・店舗名が記されているか、絵が全体に占める割合がどの程度であったか等に関して考察を行った。また、担当した絵師が得意としているモチーフがどの程度描かれているのか、その作例と同タイミングで描かれた錦絵作品にどのようなものがあるのかについて検証した。

(2) 浮世絵師と周りを取り巻く社会との関係

甲府の菓子屋、升屋の菓子袋など、浮世絵師の歌川国芳が手がけている実用的な作例が山梨県立博物館に所蔵されている。このように、ある特定の店と浮世絵師との関わりなどを指摘できる例が、上記以外にも存在する可能性が非常に高い。今まであまり焦点が当てられてこなかった、浮世絵師と周囲の環境との関係について考察を行った。

（3）実用的作例の制作背景

実用的な作例に関しては、錦絵とは異なる刊行形態を持っている可能性が高い。よって、収集したデータについて分析を行い、こうした事例がどのように作例されてきたのか、出版界における実用的な作例の制作背景について検証を行った。

４．研究成果

江戸時代から明治時代にかけての浮世絵師の実用的作例の調査を行ったところ、主に菓子袋を中心に多くの資料が残されていることが判明した。虎屋文庫や吉田コレクションなどは以前から知られていたところであったが、本研究において、今までまとまった研究がなされてこなかった山梨県立博物館所蔵の約 50 点近い菓子袋について、調査及び研究・考察を行った。

山梨県立博物館所蔵の菓子袋に関してその特徴等を一覧にし、拙稿「山梨県立博物館所蔵の菓子袋に関する一考察」（『山梨県立博物館研究紀要』第 12 集、山梨県立博物館、2018 年）にまとめたが、その結果、袋状の形態を維持したまま保存されているものが多い点、袋が何度も再利用されていたことがわかる文言が袋の裏側に残されているものが多く残されている点、また印判で「御菓子」と簡単に判を捺したものだけでなく、版木を用いて絵を施したカラフルな菓子袋が多数残されていることがわかった。とりわけ、甲府の菓子屋、升屋由来の菓子袋が多く残されており、菓子屋オリジナルの菓子袋がまとまって存在すること、また歌川国芳が升屋の菓子袋制作に関わっていることなどを、改めて上記拙稿で報告した。なお、これらの菓子袋については、山梨県立博物館の常設展示で、新たに判明した事例について紹介するとともに、当該資料の展示を行っている（山梨県立博物館常設テーマ展示「かいじあむ定食、召し上がれ」（2019 年 9 月 16 日から 12 月 18 日まで）にて菓子袋を 21 点展示）。

また、上記のように菓子屋由来の菓子袋がある一方、百姓が菓子袋の制作に携わった事例についても、上記拙稿において新たに報告を行った。例えば、鰍沢村の百姓であった紋右衛門という人物が、江戸までわざわざ出向いて菓子袋を作っていたと思しき資料（鰍沢町誌編さん委員会〔編〕『鰍沢町誌』（資料編）』鰍沢町役場、2006 年）が存在したことが、本研究によって明らかになった。

なお、菓子袋の制作背景については、調査・研究を行う中で、いくつかのパターンが存在することが判明した（拙稿「菓子袋の制作背景について－浮世絵師の作例を中心に－」（『山梨県立博物館研究紀要』第 15 集、山梨県立博物館、2021 年））。①菓子屋各店で独自に作ったケース、②菓子屋から絵師に直接依頼があり作られたと考えられる私家版の菓子袋、③改印を受けた上で錦絵と同様の扱いで制作した例、④錦絵から菓子袋へ転用された事例、⑤地本問屋において改印や版元印を捺さずに制作した例の、以上 5 パターンが存在することが判明したが、まだその制作過程には不明な点も多く、継続した調査が必要と考える。

また、菓子袋に施された絵柄に関しても、とりわけ風景画があしらわれたものに関しては、浮世絵師の歌川広重の作例をもとに描いた事例が多く残されていることがわかった。広重の図柄をそのまま転用した事例もあれば、広重の錦絵をもとに、新たに画面を組み直して作らえたものも確認できたのである。それ以外にも、既に作られた菓子袋の図柄を他の菓子袋の図柄に転用した事例なども確認でき、菓子袋を制作するにあたり、一から図柄を考えていたというよりも、既

存の事例を巧に用いて手間をかけずに制作していた事例がいくつもあることが判明したのである。また、地本問屋で大量生産された菓子袋（宝船や菓子屋の軒先がデザインされたもの）など、同じ図様で大量生産されていた事例も残されていることも判明した。

大量生産されたもの以外に、升屋と国芳との関わりの上で作成された菓子袋のように、特注の菓子袋（広重の署名あり）についても新たに存在が確認できた。こうした実用的な作例における特別な事例は白粉袋にもあり、浮世絵師の渓斎英泉が作成した特注品の白粉袋が現存していることが、本研究によって新たに判明した（拙稿「渓斎英泉の「白粉包み」」（『浮世絵芸術』第177号、国際浮世絵学会編集委員会、2019年））。

本研究によって、今まで十分な研究がなされてこなかった浮世絵師が携わった実用的な作例の中でも、とりわけ菓子袋を中心に、その一面を明らかにすることが可能となった。しかしながら、菓子袋のみに見られる版元印などまだ解明されていない点も多く、今後の課題としてあげられるだろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>松田美沙子 | ４．巻<br>177 |
| ２．論文標題<br>渓斎英泉の「白粉包み」 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>浮世絵芸術 | ６．最初と最後の頁<br>26-31 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>松田美沙子 | ４．巻<br>第12集 |
| ２．論文標題<br>山梨県立博物館所蔵の菓子袋に関する一考察 | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>山梨県立博物館研究紀要 | ６．最初と最後の頁<br>74-93 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>松田美沙子 | ４．巻<br>第15集 |
| ２．論文標題<br>菓子袋の制作背景について－浮世絵師の作例を中心に－ | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>山梨県立博物館研究紀要 | ６．最初と最後の頁<br>1-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
| --- | --- |